

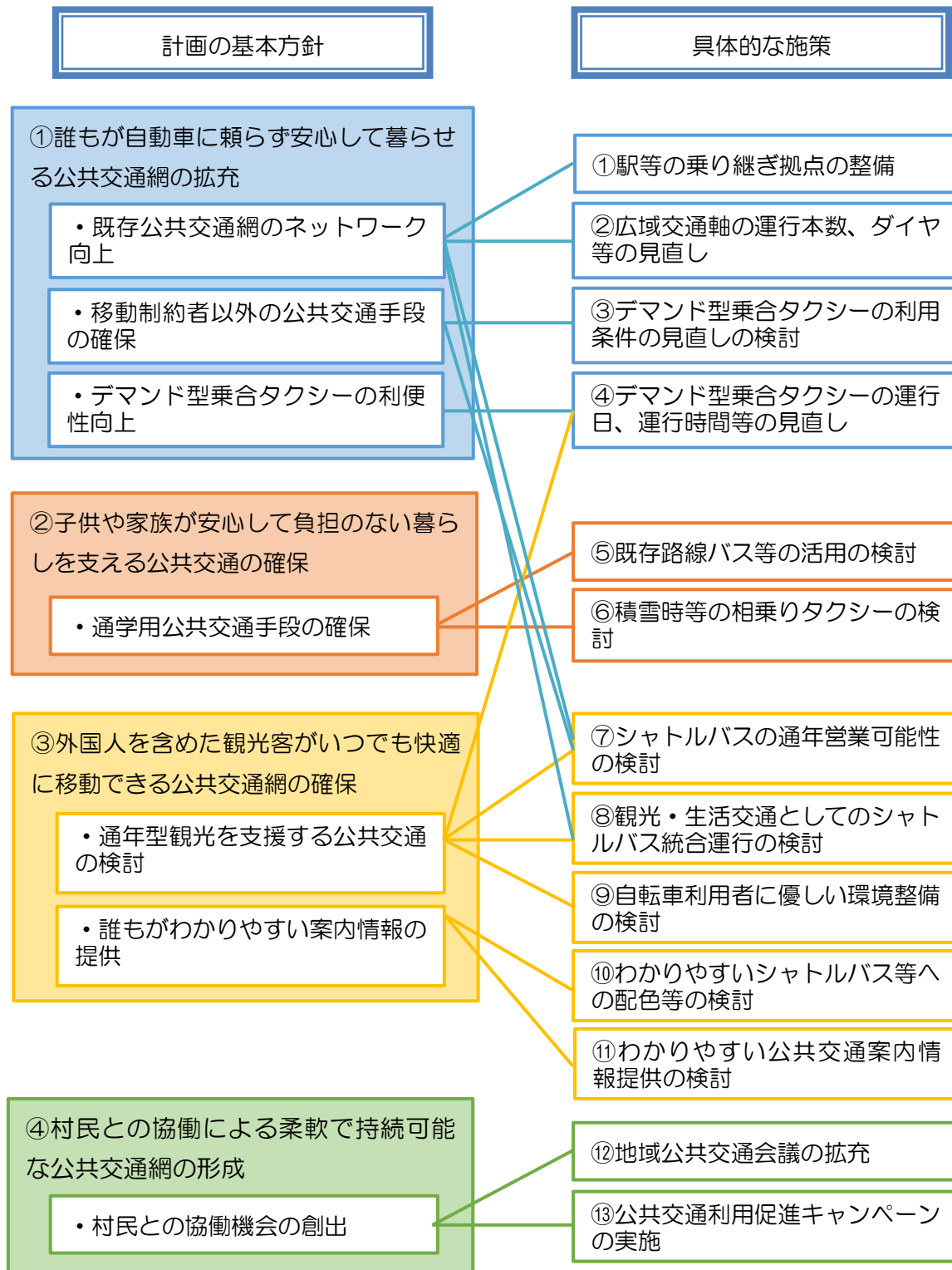
白馬村地域公共交通網形成計画
【計画推進に向けた展開について】

平成31年3月

白馬村地域公共交通会議

1. 重点的に取り組むべき施策

(1) 具体的な施策



(2) 目標

■数値目標

計画目標	事業	成果指標		資 料
		現状値	目標値	
(1) 誰もが車に頼らず安心して暮らせる移動手段の確保				
1) 既存公共交通網のネットワーク向上	①駅等の乗り継ぎ拠点の整備	●公共交通利用者数(人/日)		神城駅、白馬駅の乗車人数(H29)の実績
	②運行本数、ダイヤ等の見直し	337	現状以上	
2) 移動制約者以外の公共交通手段の確保	③デマンド型乗合タクシーの利用条件の見直し	●利用者数(人/年)		平成29年度延利用者数
3) デマンド型乗合タクシーの利便性向上	④デマンド型乗合タクシーの運行日、運行時間等の見直し	6,898	8,100	
(2) 子供や家族が安心して負担のない暮らしを支える公共交通の確保				
1) 通学用公共交通手段の確保	⑤既存路線バス等の活用の検討	●自家用車での送迎人数(人)		通学者アンケート(小中学生の自家用車による送迎人数)
	⑥積雪時等の相乗りタクシーの検討	155	現状軽減	
(3) 外国人を含めた観光客がいつでも快適に移動できる公共交通網の確保				
1) 通年型観光を支援する公共交通の検討	⑦シャトルバスの通年営業の検討	●シャトルバス利用者数(人/年)		花三昧バス・ナイトシャトルバス(元気号)(H29)の実績
	⑧観光・生活交通としてのシャトルバス統合運行の検討	14,776(花三昧) 10,180(元気号)	現状以上	
	⑨自転車利用者に優しい環境整備の検討	●白馬サイクルフェスタの参加者数(人)		白馬サイクルフェスタの参加者数(白馬五竜観光協会)
2) 誰もがわかりやすい案内情報の提供	⑩わかりやすいシャトルバス等への配色等の検討	●解決すべき課題の中の「案内表記」の割合(%)		
	⑪わかりやすい公共交通案内情報提供の検討	10.0%	現状軽減	
	(4) 村民との協働による柔軟で持続可能な公共交通網の形成			
1) 村民との協働機会の創出	⑫地域公共交通会議の拡充	●会議の開催回数(回)		地域公共交通会議の開催回数(H30)
		1	現状以上	
	⑬公共交通利用促進キャンペーンの実施	●村民満足度(%)		村民アンケート(公共交通別の満足度(大変満足、満足)の平均)
		17.2	30.0	

■数値目標の選定根拠

(1) 誰もが車に頼らず安心して暮らせる移動手段の確保

1) 既存公共交通網のネットワーク向上

●公共交通利用者数

【選定理由】

- ・広域交通軸である鉄道の利便性向上を目的としており、主要駅である白馬駅、神城駅の乗車人数が増加することにより、その目的の達成度を把握するため

《根拠資料》

- ・白馬駅と神城駅の合計乗車人数（JR東日本資料）

《目標値》

- ・乗車人数は年々減少しており、それに歯止めをかける意味で現状以上とする

2) 移動制約者以外の公共交通手段の確保

3) デマンド型乗合タクシーの利便性向上

●デマンド型乗合タクシーの利用者数

【選定理由】

- ・車を使用せずに移動できる方法の一つとしてデマンド型タクシーを導入しているが、利便性を向上して利用者の利用範囲を広げることを目的としており、その結果が利用者数の増加に反映されるため

《根拠資料》

- ・最新のデマンド型タクシー利用者数（白馬村健康福祉課）

《目標値》

- ・白馬村健康福祉課の設定している目標値

(2) 子供や家族が安心して負担のない暮らしを支える公共交通の確保

1) 通学用公共交通手段の確保

●自家用車での送迎人数（人）

【選定理由】

- ・家族の送迎の負担を軽減することを目的としており、計画策定にあたり実施した通学者アンケート結果の中で把握した小中学校の自家用車での送迎人数が減少することにより、その目的の達成度を把握するため

《根拠資料》

- ・通園・通学者アンケート 質問②（白馬村）

4.自家用車での送迎（保護者の送迎）を回答した人数

小学校 114 人

中学校 41 人

《目標値》

- ・家族の負担感を軽減するため、実際に送迎を行っている生徒を1人でも減らすことを目標として現状軽減とする

(3) 外国人を含めた観光客がいつでも快適に移動できる公共交通網の確保

1) 通年型観光を支援する公共交通の検討

⑦シャトルバスの通年営業の検討

⑧観光・生活交通としてのシャトルバス統合運行の検討

●シャトルバスの利用者数

【選定理由】

- ・観光・生活交通としてシャトルバスの通年、統合運行を目的としているが、その結果が利用者数の増加に反映されるため

《根拠資料》

- ・最新のシャトルバス利用者数（白馬村観光局）

《目標値》

- ・伸び悩んでいる利用者数を増加することを目指し現状以上とする

⑨自転車利用者に優しい環境整備の検討

●白馬サイクルフェスタの参加者数

【選定理由】

- ・観光客の自転車利用の促進を目的としており、その一環として毎年開催するサイクルフェスタの参加者実績を指標に反映させるため

《根拠資料》

- ・白馬サイクルフェスタの参加者数（白馬五竜観光協会）

《目標値》

- ・今年度参加者数（510人）を超える数値とする

2) 誰もがわかりやすい案内情報の提供

●アクセスのわかりやすさ

【選定理由】

- ・特に増加している外国人観光客への案内情報のわかりやすさ向上を目的としており、外国人観光客の印象を反映させるため

《根拠資料》

- ・2016-2017 冬季インバウンド調査のアンケート結果（白馬村）
もっとも優先度の高い課題の中の「案内表記」の割合

《目標値》

- ・アンケートで指摘された課題の中の「案内表記」に対する悪い印象を低下させる意味で現状軽減とする

(4) 村民との協働による柔軟で持続可能な公共交通網の形成

⑫地域公共交通会議の拡充

●地域公共交通会議の開催回数

【選定理由】

- ・地域公共交通を考える場の確保を目的としており、その議論の場である地域公共交通会議の開催回数を反映させるため

《根拠資料》

- ・会議議事録（白馬村）

《目標値》

- ・村民を交えた活発な議論を行う場を増加する意味で、現状 1 回しか開催されていない会議を現状以上に開催する

⑬公共交通利用促進キャンペーンの実施

●村民満足度

【選定理由】

- ・村民が公共交通に親しみをもち、日常の移動に公共交通の利用を促進することを目的としており、計画策定にあたり実施した村民アンケート結果の中で把握した公共交通に対する満足度が向上することにより、その目的の達成度を把握するため

《根拠資料》

- ・村民アンケート 問 3（白馬村）

公共交通別の満足度について、1.大変満足、2.満足を加算した割合を平均した割合

《目標値》

- ・現状の評価の低さを考慮し、少なくとも全体の 3 分の 1 が満足できるように 30.0%とする

2. 交通手段別の展開策

■交通手段別の展開方向と利用促進策

交通手段	各交通手段の役割と展開方向	利用促進策
鉄道 ・JR 大系線	・村外観光客に対する広域交通軸、並びに村内の通勤・通学者の生活交通軸としての役割を果たす。 ・二次交通の充実を図りながら存続を支援していく。	運行本数、ダイヤ等の見直し 駅等の乗継拠点の整備 利用促進キャンペーン実施
高速バス ・白馬～新宿間等 特急バス ・長野～白馬間	・鉄道を補完する広域交通軸として村外観光客を円滑に運ぶ役割を果たす。 ・観光ピーク需要に対して利用者の利便性の向上を図る。	運行本数、ダイヤ等の見直し 駅等の乗継拠点の整備 利用促進キャンペーン実施
路線バス ・八方、梅池線 ・猿倉線	・広域交通軸の二次交通として主要観光地とを結ぶ役割を果たす。 ・観光ピーク需要に対して利用者の利便性の向上を図る。	運行本数、ダイヤ等の見直し 駅等の乗継拠点の整備 利用促進キャンペーン実施
その他のバス ・花三昧バス ・ナイトシャトルバス	・通年型観光の支援、外国人のナイトライフの充実を図る役割を果たす。 ・誰でも利用できる村内を循環するバスとして統合運行について検討を進める。	運行本数、ダイヤ等の見直し 利用促進キャンペーン実施 統合運行の検討
施設送迎バス ・観光事業者運行サービス	・冬期を中心に村内観光拠点を連絡するシャトルバスとしての役割を果たす。 ・運行事業者の協力を得ながら、利用者の目的地や利用ルートを一元化し、協働で運行することを検討する。	外国人を含めわかりやすい案内情報提供の検討 運行ルート、バス停、料金等の統合の検討
デマンド型乗合タクシー	・高齢者や免許を持たない移動制約者等の移動を確保する役割を果たす。 ・利便性の向上を考えながら今後も事業を継続する。	運行日、運行時間等の見直し 利用条件の見直し
タクシー	・広域交通軸の二次交通として観光客及び村民の移動を支える役割を果たす。 ・スキー客輸送への対応を継続するとともに、冬期積雪時等限定の相乗りタクシーについて検討を進める。	外国人を含めわかりやすい案内情報提供の検討 相乗りタクシーの検討

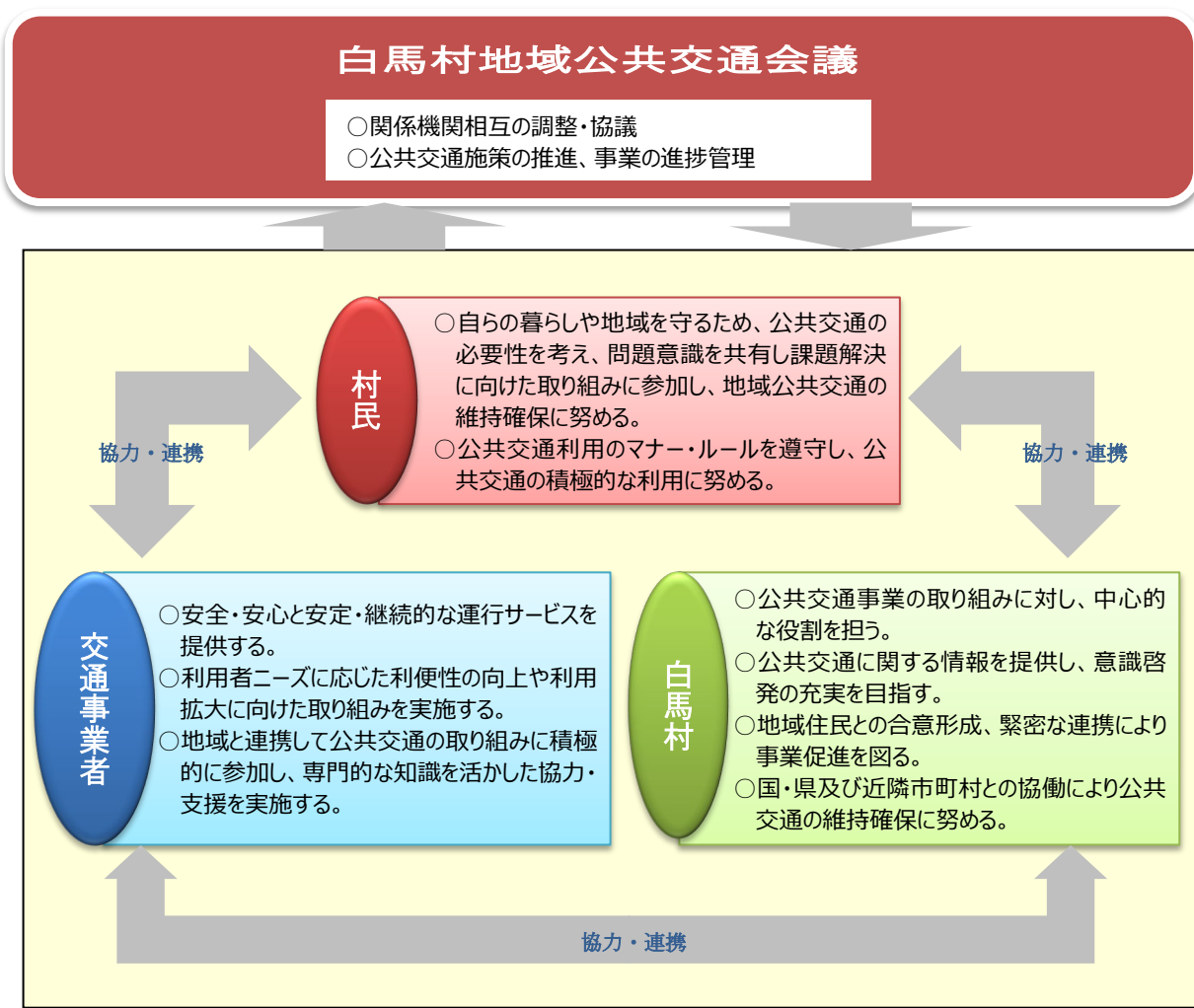
3. 計画推進に向けた展開

(1) 各主体の役割

公共交通の維持及び改善は、交通事業者や行政だけでなく、村民（地域、企業、学校等）の積極的な利用や協力が必要です。本計画は村民・交通事業者・村がそれぞれの役割を果たすとともに、相互に連携し、推進していくものとします。

白馬村地域公共交通会議は、地域の公共交通に関わる関係者が集まり、地域公共交通の維持や改善に向けて協議する場であり、本計画の進捗を管理します。

■各主体の役割

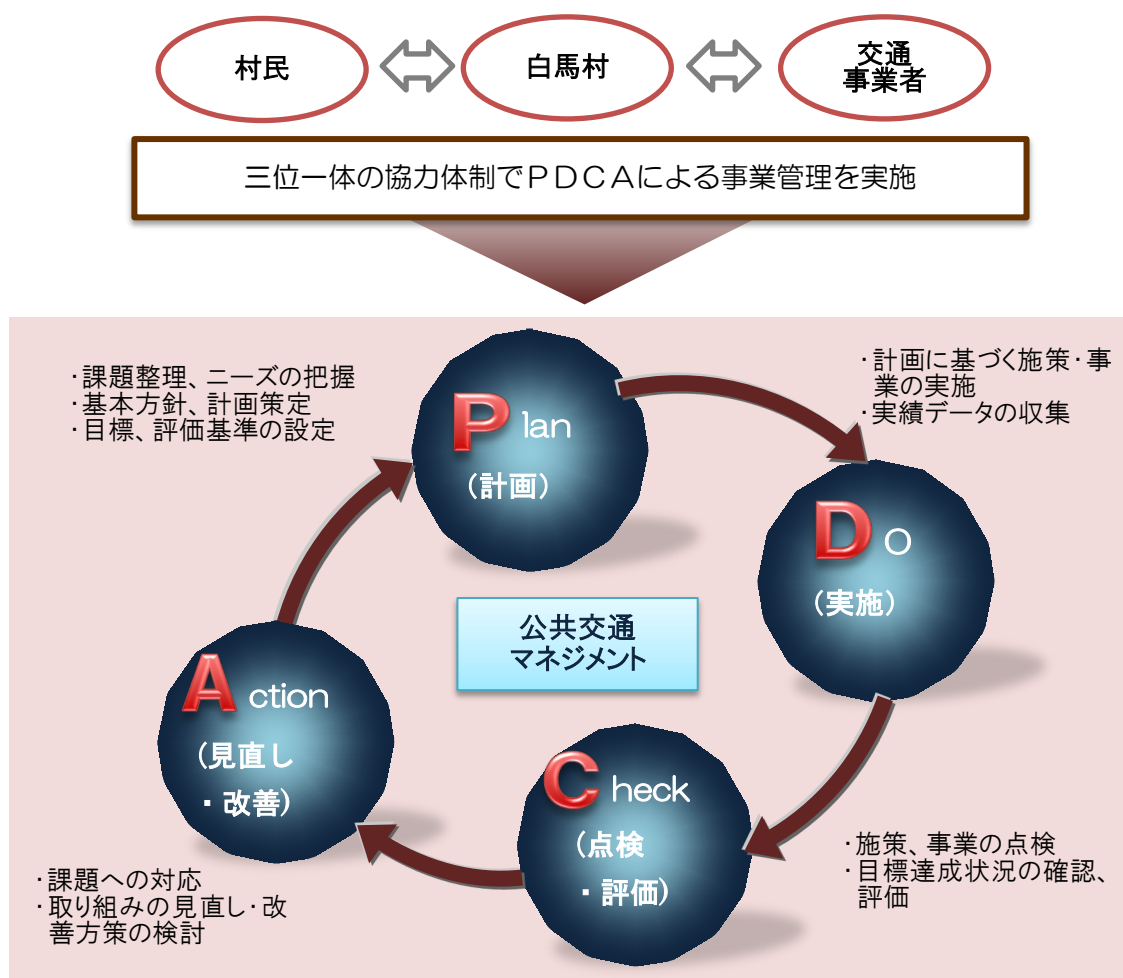


■検討体制



(2) 事業の管理体制

利用状況やニーズの把握等については、白馬村・白馬村地域公共交通会議が主体となって、定期的な点検・評価を実施し、新たな課題との抽出と改善を実施していきます。このため、PDCA（計画・実行・評価・改善）サイクルを実施する体制を構築し、計画的に取り組むとともに、計画期間の中間時期において事業・目標指標の評価・見直しを行い、事業を効果的・効率的に進めていきます。また、PDCAの各段階における計画内容や運行実績、評価結果等の情報を広く開示し、地域住民や利用者並びに事業者の意見を取り入れていきます。



(3) 事業スケジュール

	事業	実施主体	短期 (計画年度 H31 年～H37 年)					中長期
			H32	H33	H34	H35	H36	
①	駅等の乗り継ぎ拠点の整備	白馬村、JR、バス事業者		検討				計画・実施
②	運行本数、ダイヤ等の見直し	白馬村、JR、バス事業者		検討				計画・実施
③	デマンド型乗合タクシーの利用条件の見直し	白馬村、タクシー事業者	検討・計画			実施		
④	デマンド型乗合タクシーの運行日、運行時間等の見直し	白馬村、タクシー事業者	検討・計画			実施		
⑤	既存路線バス等の活用の検討	白馬村、バス事業者	検討			計画・実施		
⑥	積雪時等の相乗りタクシーの検討	白馬村、タクシー事業者	検討			計画・実施		
⑦	シャトルバスの通年営業の検討	白馬村、バス事業者、索道事業者	検討			計画・実施		
⑧	観光・生活交通としてのシャトルバス統合運行の検討	白馬村、バス事業者、索道事業者	検討			計画・実施		
⑨	自転車利用者に優しい環境整備の検討	白馬村		検討・計画・実施				
⑩	わかりやすいシャトルバス等への配色等の検討	白馬村、バス事業者、索道事業者	検討			計画・実施		
⑪	わかりやすい公共交通案内情報提供の検討	白馬村、各交通事業者	検討			計画・実施		
⑫	地域公共交通会議の拡充	白馬村		実施				
⑬	公共交通利用促進キャンペーンの実施	白馬村、各交通事業者	検討			計画・実施		

※この資料は現状の課題を踏まえ仮に村内循環バスを走らせた場合の案になります。

実際には関係する事業者との調整や費用面については検討及び調整は行っておりません。

■（仮称）村内循環バスの検討

（１）既存公共交通資源の現状

広域的な来訪者が利用する鉄道や特急・高速バスの２次交通として運行しているバスを大別すると次の３つである。

① 村内を循環するバス（観光）

主要観光地が目的地であるが、途中バス停で乗降可能で、村内主要地区を周遊している。

- ・花三昧バス
- ・ナイトシャトルバス

② スキー場間を結ぶバス

白馬八方バスターミナルを起点に主に宿泊先と村内スキー場を連絡する。

- ・THE HAKUBA VALLEY SHUTTLE BAS
- ・HAPPO SHUTTLE BUS
- ・白馬五竜スキー場&Hakuba47 ウィンタースポーツパークシャトルバス

③ 白馬駅と観光地を結ぶバス

路線内での乗降は可能であるが、基本的に白馬駅から梅池方面、猿倉方面に限られた２次交通である。

- ・路線バス（梅池線）
- ・路線バス（猿倉線）



【今後の検討に活用する路線】

- ①「村内を循環するバス」のルートを基本に考える。
- ②スキー場間を結ぶバスについては、スキー利用者に限定された路線であり今回検討するバスとは性格が異なり、無理な統合は望まれない。
- ③白馬駅と観光地を結ぶバスについても、「白馬駅～白馬八方バスターミナル間」については、一般路線バスのような性格があるが、基本的に白馬駅と観光地を直接結ぶ路線であるので、必要な情報についてのみ参考にする。ただし、「白馬駅～白馬八方バスターミナル間」については、カーフリーゾーンの検討等の中で検討を行う。

■既存公共交通資源（バスによる２次交通）

No	名称	事業者	運行期間	運行本数	主要連絡施設 (赤字は交通結節点)	料金
1	路線バス (白馬駅～榑池線)	アルピコ交通	4月～11月 の特定日	夏25便 春秋26便	・白馬駅 ・白馬八方バスターミナル ・榑池高原 ・白馬乗鞍 ・白馬コルチナ	白馬駅からの運賃 白馬駅～白馬八方BT 180円 白馬駅～榑池高原 560円 白馬池～白馬乗鞍 650円 白馬駅～白馬コルチナ 860円
2	路線バス (白馬駅～猿倉線)	アルピコ交通	4月～10月 の特定日	夏16便 春秋10便	・白馬駅 ・白馬八方バスターミナル ・猿倉	白馬駅からの運賃 白馬駅～白馬八方BT 180円 白馬駅～猿倉 1,000円
3	花三昧バス	白馬村 観光局	7月～8月	2ルート 計10便	・白馬せせらぎの里 ・岩岳マウンテンリゾート ・八方ゴンドラ ・白馬八方バスターミナル ・白馬駅 ・Hakuba47 ・五竜エスカルプラザ ・白馬五竜 ・姫川源流	・大人1,000円 ・小人500円 (1日フリー)
4	ナイトシャトルバス (元気号)	白馬村 観光局	12月～2月 (17:39 ～22:51)	2ルート 計20便	・岩岳ゴンドラ ・咲花ゴンドラ ・八方ゴンドラ ・エスカルプラザ ・新田水車小屋 ・白馬八方バスターミナル ・白馬駅 ・神城駅	・大人・小児一律1回300円 未就学児童(6歳未満) 無料
5	エイブル白馬五竜ス キー場&Hakuba47 ウインタースポーツ パークシャトルバス	白馬五竜観光 協会	12月～3月	25ルート 計147便	・エスカルプラザ ・いいもりグレンデ ・Hakuba47 ・八方ゴンドラ ・白馬八方バスターミナル ・神城駅 ・飯森駅 ・白馬駅	・無料
6	THE HAKUBA VALLEY SHUTTLE BAS	一般社団法人 HAKUBA VALLEY 索道事業者 プロモーション ボード	12月～3月 (一部2月)	3ルート 計57便	・白馬コルチナスキー場 ・榑池高原スキー場 ・白馬八方尾根スキー場 ・白馬五竜エスカルプラザ ・爺ガ岳スキー場 ・白馬八方バスターミナル	・おおまち号(無料) ・こなゆき号(1回大人500円、小児250 円) ・白馬五竜～白馬駅～榑池高原号 (1回乗車500円、小児250円) HAKUBA VALLEY共通リフト券を持って いる場合、チケットの提示で無料
7	HAPPO SHUTTLE BUS	八方尾根開発	12月～3月	7ルート 計77便	・岩岳ゴンドラ ・咲花ゴンドラ ・榑池ゴンドラ ・八方ゴンドラ ・新田バスターミナル ・白馬八方バスターミナル	・スキー場利用客のみ限定 無料

■運行期間

NO.	名称	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	路線バス (白馬駅～榑池線)												
2	路線バス (白馬駅～猿倉線)												
3	花三昧バス												
4	ナイトシャトル (元気号)									夜間運行(18～23)			
5	エイブル白馬五竜スキー場 &Hakuba47ウインタースポーツ パークシャトルバス												
6	THE HAKUBA VALLEY SHUTTLE BAS												
7	HAPPO SHUTTLE BUS												

（２）（仮称）村内循環バスの検討の基本方針

（仮称）村内循環バスを検討するにあたり、既存公共交通資源として整理したバスを活用することを検討する。

これらのバスは、観光客を対象としているが、運行期間、運行経路、運賃が異なっており、単純にこれらを組み合わせてバスネットワークを形成することは難しい。

そこで、村内を循環するバスを検討するにあたっては、次のような基本方針を設定して考えていくこととする。

【（仮称）村内循環バスの基本方針】

- ・ 村民が誰でも利用できる。
- ・ 一般観光客も利用できる。
- ・ 運行形態の一つとして既存のバス路線が経由しているルートを利用する。
- ・ 鉄道と村内ルートでの競合をできるだけ避ける。
- ・ 広域交流軸である鉄道、高速・特急バスから乗り継ぎが可能である。
- ・ 観光資源の季節変動を考慮し、春から秋までを基軸路線と考え、冬期はスキー及びアフタースキーを考慮した路線を加味する。
- ・ 運行ルートは、基本的に片道 1 時間程度で循環できるルートとし、大型バスが走行可能な道路を対象に設定する。
- ・ 経由地は村内居住者の利用が見込まれる公共施設や商業施設等と主要観光施設、駅・バスターミナルとする。
- ・ 周辺集落や検討する（仮称）循環バスが利用できないところの村民の移動は、既存のデマンド型乗合タクシーが分担する。なお、50 歳未満等利用対象外の扱いについては、デマンド型乗合タクシーの見直しの中で別途検討していく。
- ・ 運賃体系については、運行主体や既存バスの運賃体系を参考に今後検討を進める。
- ・ ここで検討する内容は、あくまで今後の議論のたたき台となるものである。

(3) (仮称) 村内循環バス検討

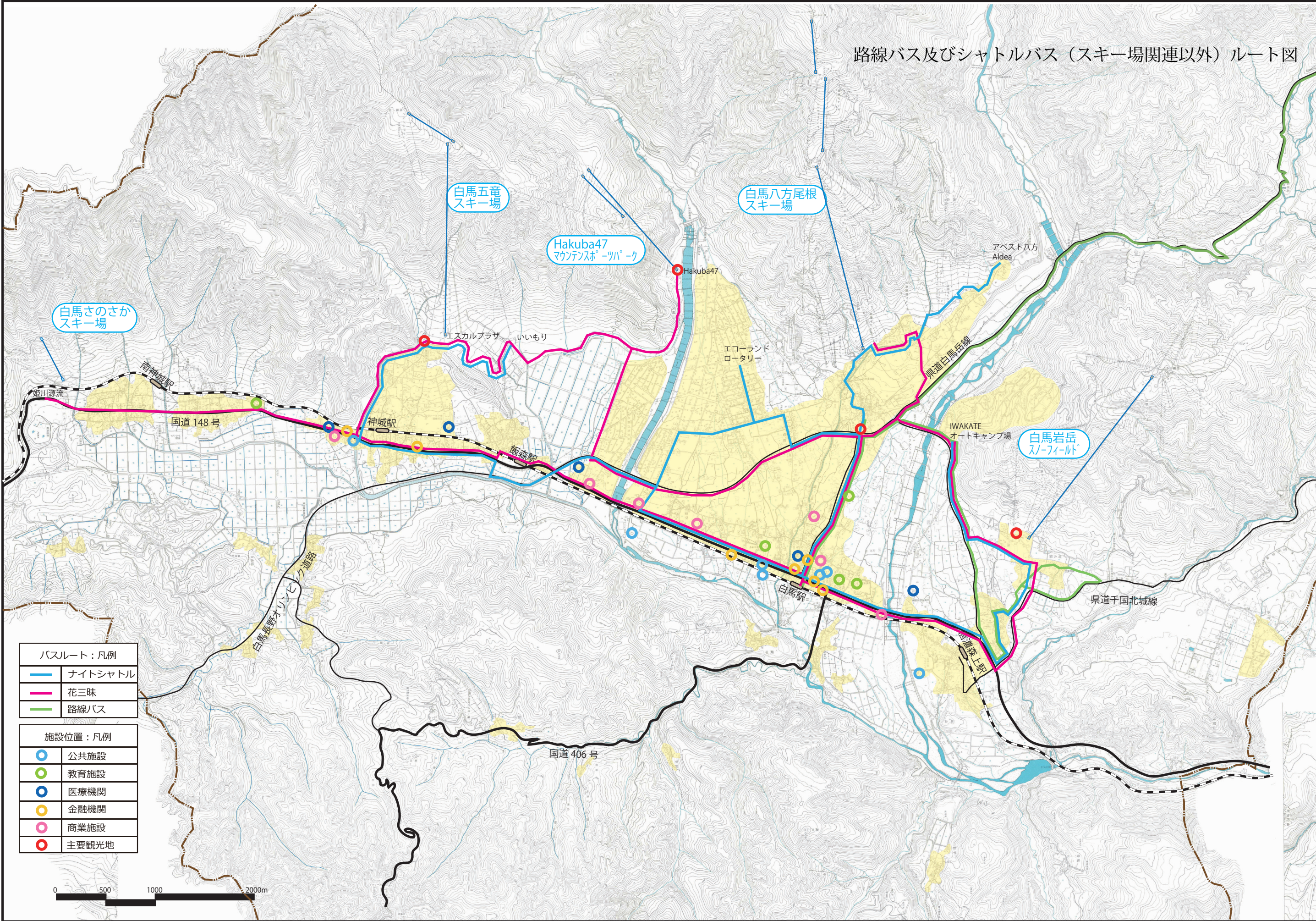
前述した基本方針を具体的に整理すると、次のとおりである。

基本方針	具体的な内容
・ 村民が誰でも利用できる	300m間隔程度でバス停を設置する。
・ 一般観光客も利用できる	利用者の制限を設けない。
・ 既存バス路線の活用	白馬村観光局の運行している2つのバス路線と村内を循環している白馬五竜観光協会のシャトルバス路線を活用する。
・ 鉄道と村内ルートの競合を避ける	JR大糸線と並行する国道148号をなるべく避けて沿線の住宅地内を通過する。
・ 広域交流軸との乗り継ぎ	JR大糸線の主要駅を経由する。
・ 季節変動の考慮	循環ルートから離れた観光地等については、季節変動を考慮しながら、季節限定の接続を考える。
・ 運行ルート	長時間の循環を避け、片道1時間(30km程度)で巡回できるルートとする。
・ 大型バスの通行	一方通行や別荘地内の未舗装道路、狹隘道路を走行ルートに含めない。
・ 経由地	公共施設、教育施設、医療機関、金融機関、主要商業施設を経由する。
・ デマンド型乗合タクシーとの役割分担	循環バスでカバーしきれない地区については、既存のデマンド型乗合タクシーでカバーする。 現在ある年齢等の制約については、検討課題とする。
・ 運賃体系	採算面、季節変動、村民の負担等を顧慮しながら、妥当な運賃設定を検討する。

□参考（主要経由地）

NO.	分 類	施 設 名
①	公共施設	白馬駅、神城駅、信濃森上駅、白馬八方バスターミナル、村役場、図書館、ウイング 21、神城多目的集会施設、白馬海洋センタープール、B & G 体育館、白馬グリーンスポーツの森
②	教育施設	白馬高校、白馬中学校、白馬北小学校、白馬南小学校、しろうま保育園
③	医療機関	横沢医院、栗田医院、北沢医院、白馬診療所、神城醫院、しんたにクリニック
④	金融機関	白馬郵便局、神城郵便局、長野銀行白馬支店、八十二銀行白馬支店、松本信用金庫白馬支店、J A 大北白馬支所、J A 大北神城支所
⑤	商業施設	デリシア白馬店、A コープパピア白馬店、ザビック白馬店、グルメシティパル、コメリハード&グリーン白馬店、アメリカンドラック白馬店、道の駅
⑥	主要観光地	エスカルプラザ、Hakuba47 マウンテンスポーツパーク、岩岳マウンテンリゾート

路線バス及びシャトルバス（スキー場関連以外）ルート図



バスルート：凡例	
—	ナイトシャトル
—	花三味
—	路線バス

施設位置：凡例	
○	公共施設
○	教育施設
●	医療機関
○	金融機関
○	商業施設
○	主要観光地

（仮）村内循環バスルート計画（案）

